

# 人は同じものを見ても、違うように意味づける

## ～ 学習指導要領に足りないもの、キャリア教育が補うもの② ～

「例えば、同じ研修を受けたのに「いやー、為になる研修だった」という人もいれば「あんまり良くなかったな」という人もいますよね。学生の時、介護等体験を受けた後に「障害のある子の教育って奥深いし、興味深いな」とって終わった人もいれば、「いやー。オレには向かんわ」と言っていた友人も正直いましたよね。また、子どもたちにとっても、交流会の後に相手校のペアの友達の率直な感想を聞くと、「もっと仲良くなりたいと思った」という子から「怖かった。もう嫌だ…」という子までいるのじゃないでしょうか。要するに人によって体の外側では同じ経験をしながらも、体の内側では人それぞれに違うように価値付け、意味づけ、

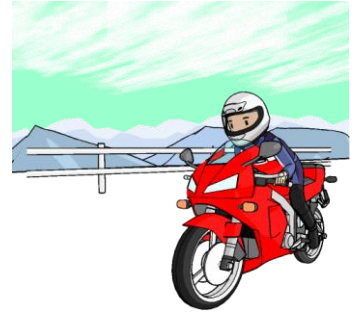


図1 キャリア教育は「ガードレールづくり」

方向付け、重み付けているものなんですよね。今回はこの波線部分の理解から学習指導要領の弱点②を紐解いていきます。

「「あいさつをしっかりしなよ」「勉強は一日3時間以上しなさい」「下級生に優しく」「からだをコツコツと鍛えなさい」などなど。先生であるアナタもこういったことを小学校、中学校、高校の教育の中でたくさん言われて大きくなったのではないのでしょうか。要するに「ああしろ、こうしろ」と誰かがアナタに言ったことをルールやマナー、社会の仕組みとして受け入れて、当時の行動を形作っていた側面があるということですよ。言い換えれば、自分でない、誰かの外発的な動機付けによって自分の行動を形成していたんですよ。で、今のアナタは元気な声であいさつをしていますか？勉強を一日3時間以上積み重ねていますか？後輩に優しくしていますか？からだをコツコツ鍛えていますか？…えっ、しなくなっちゃったの？？ナンデ？？

「前の学習指導要領までの大きな欠点だったのが、子どもが「なぜそれをするのか？なぜ学ぶのか？」を考えるとなく（考える機会少なく）、知識や技能を一方的に「詰め込む」ことだった！…ということは、どこかで聞いたことがあると思います。そして、当たり前ですが、人間は意味も価値も見出していないことは継続させるににくいんです。これこそが学習指導要領の弱点その②。そして、今回の学習指導要領では、一つ一つの学習を「意味づけや価値付け、ものの見方・考え方にまで伸ばしていく」ことや、『「こうやって生きられると良いよね」という「特別の教科道徳」の重視』（←とてもザックリだけど…）につながったんです。そして、新指導要領作成段階でそれに大きく関わったのがキャリア教育の「キャリア発達」という考え方です。

「一回話しを冒頭に戻しますが、人は同じ経験をしていても価値付けや意味づけ、方向付け、重み付けは十人十色でしたよね。考え様によっては悪い方向にそれがされちゃう場合もありますよね。例えばたくさんの経験を蓄えて東京大学や京都大学を卒業しても、その経験を悪い方向に使う人だって少なからずいますよね。そこで「キャリア教育」が登場します。「自己実現」に向かうことを動機付けにして、子どもが経験から導き出す価値付け、意味づけ、方向付け、重み付けにガードレールを付けていくイメージ（図1）です。少し理屈っぽい話しになってしまいますが、ここで定義を確認してみましょう。

☆「キャリア教育」とは、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育（中央教育審議会 2011）

☆「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

「「キャリア教育」というとどうしてもキャリアプランニングマトリクスの「4領域」が有名ですが、定義を読み解くと実は「自分らしい生き方を実現」に向かって子どもが「意味づけ」や「価値付け」、「方向付け」、「重み付け」をしていくのに寄り添いながら、子ども自身が自立に向けての基盤となる能力や態度の形成の「意味」や「価値」、「方向」、「重み」を見いだしていくことをアシストする、ガードレールを付けてあげることこそが大切なんだということが分かります。だから「乃木坂46に入りたい」や「小栗旬と結婚したい」、「100億円稼ぎたい」とかという一見途方も無い夢やねがいの、「自己実現の目標」としてはステキな尊重すべきものなんですよ。

# 誰だってそう キミだってそうなんだ。

¶ 突然のミスチル感…w。余談ですが、先生であるアナタにとってもこの価値付けや意味づけ、方向付け、重み付けは依然として大切なんだと思います。あなた自身も意味も分からずに行っている事ってないですか？国語・算数（発達の仕組みも知らないままに何となくパネルシアターをしてるとか）や自立活動（ペグ指し・プットインとか）、遊びの指導（ブランコばかりで良いの？とか）、生活単元学習（散歩や調理、滑り台に何の意味があるの？とか）などで意味や価値をあまり見いだせず、ベテランの先生もしているからそれに習って…していること、実はたくさん有るんじゃないかと思います。で、ベテランの先生に聞いてみても、答えは曖昧なまま…。つまり、実はベテランの先生達も初任に近い先生達も、相当数の人がその意味や価値や重みを知らずに「詰め込める部分がある」と言うことなんです。自分が先生として子どもにしていることの意味や価値をもっと知って、進むべき方向やその重みを更に感じられるようになると、アナタ自身が仕事に向かう姿勢がもっともっと主体的になっていくかもしれません。平たく言うと「こうすればいいんだな」って自分自身が「納得」してできていることがまだ少ないのではないのでしょうか？意味や価値、重み、方向性が見いだせていることには動機付けができて、継続しやすいですからね。そしてそれこそが、新学習指導要領の評価観点「主体的に学びに向かう力」ってヤツなのです。

## 補足コラム

「外側に飛び抜けた知識や技能をもつ人」＝「内側に相応の成熟をもつ」とは限らない

先日、個人的にショッキングなニュースが有ったのですが、2年前に夏の甲子園で優勝した花咲徳栄高校の当時の野球部キャプテンが強盗致傷の罪で逮捕されました（ボクは栄野球部のブラバンの大ファンなのだけれど…）。その時にボクは「人にとっての『成長』って一体何なんだろう？」とすごく感じました。「外側の飛び抜けた技能をもつ人」が「内側に相応の成熟をもつ」とは限らないんだなあ…と。でも、落ち着いて考えてみると、飛び抜けた知識や技能をもつのに、「なんか幼稚だな…」という人ってテレビの中にもいっぱいいますよね。例えばだけど政治家とか。ウサイン・ボルトとか。沢尻エリカとか。理由も付けずに「あーしろ、こーしろ」と育てると、外から見える知識や技能は積み重なって『成長して』いくけれど、「なんで自分はそうするのか？」とか「自分の選択した行動の意味や価値、重み」を感じながら生きていくというような『成熟していく』ことって成されにくいんだなあ…と。

そうなるとやっぱり「どうしてそう考えるの？」「どう感じた？」「次はどうすれば良いと思う？」という問いかけが有る授業って大切だと思うし、自分に引きつけて考えれば、小説とかを読んで、自分自身と対話しながら自分の在り方を模索していくのも、これからの自分自身の成長にとって栄養になるのかな…なんて思います。まあ、そんな時間もないのだけれど orz…。